

大槌・気仙川流域国有林の森林計画に関する

住民懇談会

令和5年11月21日に大槌・気仙川流域国有林の森林計画に関する住民懇談会を開催しました。

この住民懇談会は、令和7年4月を始期とする大槌・気仙川流域森林計画区の地域管理経営計画等の作成にあたり、国民参加の森林づくりを進める一環として、国有林の森林計画等に関する説明を行うとともに、地域の皆様からご意見・ご要望をお伺いする機会とするものです。

出席者は、森林計画検討委員、一般参加者、岩手県及び市町担当者、事務局の総勢27名で、様々なご意見をいただきましたのでいくつか紹介します。

- ・ 国有林は民有林よりも公益的な機能、特に水資源の涵養や温暖化防止への役割が求められている。
- ・ 今後は台風の大型化や豪雨が増加することなどから、環境保全対策が軸になると思う。
- ・ 林業の担い手・伐採者・加工者・再造林について、経済対策も必要と感じている。
- ・ 陸前高田市で全国植樹祭が開催され、地元の高校生の参加者など若者も参加していた。これを契機に県民に対し、よりアピールしていくことも必要である。
- ・ 予算や担い手確保のためには、森林環境教育や国産材の使用などにより、関心を高める必要がある。
- ・ 森林環境教育のZORING(森林環境教育のカードゲーム)について、産業まつりにも出展していただいたが大変好評で反響も大きい。市内学校への紹介を推進していただきたい。
- ・ 鳥獣害対策について適切に進めていただきたい。
- ・ 趣味で山へ行くこともある。ハイカーも多く見かけ、森林への関心はそれなりにあると感じる一方、「林業」となると就業につながる窓口が国や県となり、敷居が高く感じる。もう少し、やわらかく「林業」へつながることが出来ればと思う。

全般を通して、森林・林業に大きな関心をもっていただいております。我々森林管理署に期待されていることが分かりました。

今後は、いただいたご意見等を参考に、地域管理経営計画等の策定作業を進めていきます。

